

トーク&ディスカッション

高校生物教科書を考える ～ヌクレオソームの構造を題材に～

みんなで脳に汗をかきましょう!

日時 2020年3月14日(土) 午後2時～5時

会場 名城大学附属高等学校 生物室

(名古屋市中村区新富町1-3-16)

名鉄電車「東枇杷島」駅下車徒歩約5分(普通電車のみ)

「栄生」駅下車徒歩約8分(急行・準急および普通)

話題提供者 前島一博氏

(国立遺伝学研究所 ゲノムダイナミクス研究室 教授)



次期学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が言われ、「教科書の内容を教師が一方的に教える」スタイルの変容が求められています。

「主体的に考え」「議論に積極的に参加し」その結果として「深い学び」につながる題材の一つとして、「ヌクレオソームの構造」を取り上げ、参加者と話し合ってみたいと思います。話題提供者の前島一博氏は、「30nmのクロマチン繊維は存在しない」と、新しいモデルを提唱されています。これまで教科書でおなじみだった30nmのクロマチン繊維。ではどんな構造をしているのでしょうか。また、どのような手法で解き明かされたのでしょうか。今回は「問いを見出す」をキーワードに、みんなで考えてみたいと思います。

※参加費(資料代) 500円

※準備の都合上、3月6日(金)までに申し込みをお願いします。

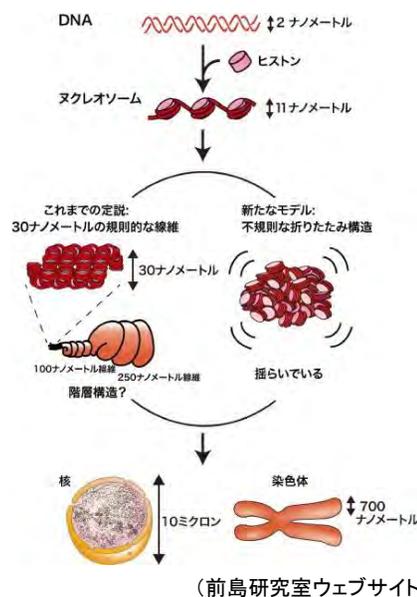
申込先: 中道貞子(生物教育研究所・研究員)

teikonakamichi@hotmail.co.jp

電話 090-5367-9778

※意見交換会について

18時頃から、名古屋駅近くで意見交換会を開催します。会費は4,000円程度。議論しきれなかったことについてワイワイ話し合いができればと思います。こちらも3月6日(金)までに連絡をお願いします。



主催 生物教育研究所
共催 名城大学附属高等学校

【註】生物教育研究所について

生物教育に関わるさまざまな活動を続けている生物教育者(主として、フルタイム勤務を終えた者)で構成されている研究機関。研究員は、それぞれが関心のあるテーマについて研究活動や啓蒙活動を行っている。

所長: 片山舒康(東京学芸大学名誉教授)